

○母になったひなざくら

中島トニアシュタール(茨城)さんで競技馬として活躍した遠野産馬ひなざくら(12歳)が母になりました。初子は6月17日生まれ、障害競技で活躍中のクールKを父に持つ牝馬です。ひなざくらの軌跡を写真で追います。



ひなざくらの初子(2022年8月22日 中島トニアシュタールにて)

○受け継がれる遠野の血統

ひなざくら(セリ名: ヴィクト・スラート3)は2010年2月、遠野小友町の菊地栄喜さんの家で生まれました。海外の競技会で活躍したハリーベいの姪にあたります。翌年の遠野市乗用馬市場で中島トニアシュタールさんのもとへ。やがて「ひなざくら」という愛らしい名前でも競技に出場するようになり、2018年の第42回全日本ジュニア障害馬術大会の第9競技・チルドレンライダー障害飛越選手権で中島妃香留さん(中島トニアシュタール)が騎乗して優勝を果たしました。そして今年、母になったのです。遠野でスポーツホースを中心に内国産乗用馬生産がスタートしてから半世紀近く経ち、遠野産馬は多くの競技会で活躍するようになりました。近年は自ら繁殖を手掛ける乗馬クラブが増えてきたこともあり、遠野を旅立った馬たちはいろいろな場所でその血を次世代につないでいるのです。ひなざくらの子の健やかな成長を祈ります。

写真右: 2018年チルドレンライダー選手権優勝時の中島妃香留選手&ひなざくら

写真提供 c3. photography



2010年5月 母馬と当歳のひなざくら



2011年10月 乗用馬市場1歳のひなざくら



2022年8月 放牧中のひなざくら親子

*ひなざくら(牝12) 父: フリーデンスラート(ウェス) 母: ヴィクト・アール5 (セ・フ)